opusdei.org

黙想:神の母マリア (1月1日)

黙想のテーマ:「マリアを観想する」「マリアの母性」 「マリアのようにイエスを受け入れる」

マリアを観想する

マリアの母性

マリアのようにイエスを受け入れる

きょうの祭日の福音書では、羊飼い たちが急いで幼子に会いに行き、天 使たちから告げられた通りだとの語います。 でた次第が語られて、驚き、、驚き、、驚き、、驚き、、 を引きな、、驚き、います、との表現である。 でではいます。 でではいます。 でではいます。 でいます。 でいるたけ。 でいるには、 でいるには、 でいるにない。 でいる。 でいるにない。 でいるにない。 でいるにない。 でいるにない。 でいるにない。 でいるにない。 でいる。 でい

「幸せなかた、聖マリア、代々、天 地を支配される王が、あなたからが 生まれになった」団。世界の救いが 始まりました。宇宙の王はマリア 始まりました。宇宙の王はマの神 に選びました。この は、およそ私たちの理解力や想定 は、おところではありまけん。神 はないなせの、しかもうら若い の了承を当てにされたのです。 おとめは、なぜまさに自分が選ばれ たのかを問いません。ただ神がその 背後におられ、それが神の御心で聖 ると分かれば十分です。そこで狙い この事実を自分の、私か に変えています。「ご婦人よず に変えています。」で が手したが手 もの御母話するよう望まれたら 神をお世話するよっすべのようにしてあなたの御子と どのよいのかお教えください」 [2]。

ことを、最高のかたちで証しします。

「いのちの源である神よ、あなたは おとめマリアを御子の母として選 び、救い主を人類に与えてください ました。聖母を通して御子キリスト を迎えるわたしたちに、救いの喜び を味わわせてください | 図。 きょう のミサの集会祈願で、このように祈 ります。そして私たちはこう自問す ることができます。マリアが神の母 であることは、私にとってどのよう な意味がありますか? 私は個人とし てそれをどのように経験すべきです か? フランシスコ教皇は述べまし た。「救い主の母は私たちを先導 し、私たちの信仰、召命、使命を絶 えず堅固にしてくださいます。聖母 の謙遜と神の御心に即応する模範 が、私たちの信仰を喜びに満ちた、

境界のない福音宣教へと変容させて くれるのです。このようにして私た ちの使命は豊かな実りを結びます。 なぜならそれはマリアの母性に基づ き倣っているからですして、私たち の神との関係は、マリアが生きてい た祈りの生活を手本にしています。 そしてマリアはいつでも私たちを助 けたいとお望みです。「三位一体の 神は、私たちと同じ人間であるキリ ストの母としてマリアをお選びに なったそのときに、私たち一人ひと りを御母のマントの庇護の下に置い てくださったからです。彼女は神の 母であり、私たちの母上でもありま す | ₁₅₁ (5) 。

私たちは驚きに圧倒されて自問することでしょう。神の母であったかたのような聖性が、私たちに提供されているとは。「わたしたちの精神の力では神を見いだすことは難しい。それなのに。どうすれば、思いを尽くして神を愛することができるだろ

うか。わたしたちの心ははるか遠く にしか神を見ることができない。世 の中には神の顔をわたしたちから覆 い隠してしまうような、多くの矛盾 が見られる。それなのに、どうやっ て心を尽くし、精神を尽くして神を 愛するのだろうか。神はもはや遠く におられるのではありません。神は もはや知ることのできないかたでは ありません。神はもはやわたしたち の心が見いだすことのできないかた ではありません。神はわたしたちの ために幼子となりました。こうして 神はわたしたちの疑いをすべて消し 去ります。神はわたしたちのために たまものとなりました。神はご自身 を与えてくださいました。クリスマ スは、贈り物を行う祭りとなりまし た。それは、わたしたちのためにご 自身を与えた神に倣うためです| 161。もし私たちがその贈り物を受け 入れ、ご自身のいのちを贈ってくだ さる主にわが身を委ねれば、私たち もまた他者にとっての贈り物となり

ます。そのとき私たち自身が、神と 私たちの周りの人々にとっての贈り 物になるでしょう。

天使たちはこの驚異を声高らかに歌 います。彼らはひとりの女性が神の 子を出産したことに驚愕していま す。天使たちは驚きを抑えきれず、 歴史上初めてクリスマスの讃美歌を 歌います。「いと高きところには栄 光、神にあれ、/地には平和、御心 に適う人にあれ」(ルカ 2・14)。彼 らはこの歓喜をほめ歌い、マリアと 幼子、そして父なる神の魅了された ご様子を見て喜びます。私たちの魂 はその馬小屋の前で静まり返り、神 を喜びで満たすもの、神が魅了され ること、神さえ熱狂させるものをそ こで見つけます。駆けつけてきた私 たちは、息を整えています。天使た ちの優雅な歌声はイエスを眠らせ、

私たちを迎え入れる子守唄のようで す。

私たちが神の御旨を常に完全には果 たせないということは、自分の経験 からよく分かっています。しかし聖 母の助けを得るなら、神の言葉を守 り、それを心の中で深く考えること は可能です。それは私たちの手の届 くところにあります。したがって確 かにいえるのは、主が私たちに語ら れたことは必ず成就され、主の言葉 が私たちの生活に体現され、主の血 が私たちの血管に流れるようになる ということです。このことを聖ベル ナルドは確約しています。「栄光あ る三位一体が、そして御子の位格ご 自身が、人間の肉の実体を受け取り ました。御子の体の温もりから隠れ られる者はだれもいないようになる ためですしって。

私たちはこの寒い夜、馬小屋の中で 温まりたいと思います。暗闇と湿気 が私たちの魂に入りませんように。 私たちの御母がなさったような潔さ と謙遜な心と信心を込めてイエスを お迎えしたいのです。イエスの言葉 を御母のような優雅さと喜びの心で 受け入れて、聖母のように御子の言 葉を世界中に注ぎたいと願っていま す。

- [1] 聖母マリア信心ミサ、入祭唱。
- [2] 聖ホセマリア『鍛』84番。
- [3] 「神の母聖マリア」祭日、集会 祈願。
- [4] 教皇フランシスコ、説教、2014 年1月1日。
- [5] 聖ホセマリア『神の朋友』275 番。

[6] ベネディクト十六世、説教、 2006年12月24日(カトリック中央協 議会訳)。

[7] 聖ベルナルド、「聖母被昇天の 八日間」説教2。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-kaminohaha/(2025/12/17)